

SSSV ミュンヘン工科大学研究室交流 (2018/11/25~2018/12/2)

Technische Universität München (TUM), Munich City, Germany

静岡大学

小林祐一
ARJONILLA GARCIA Francisco Jesus
杉本健 山本好晃
阿部卓未 岩瀬諒



Technische Universität München

Prof. Dirk Wollherr

研究分野

人間との共同作業を想定するヒューマノイドや
物体認知, モバイルロボットのナビゲーション



研究発表&研究室交流



11/25: ミュンヘン到着 ホテルへ移動
11/26: ノイシュバンシュタイン城観光
11/27: ミュンヘン市内観光
11/28: 研究発表, TUMの学生とビアガーデンで交流
11/29: マックス・プランク研究所見学, BMW博物館見学
11/30: シュトゥットガルト観光
12/ 1: ザルツブルク観光
12/ 2: ミュンヘン空港から日本へ出発



研究発表の様子



ミュンヘン市内のビアガーデンにて研究室交流



ミュンヘン周辺の社会見学



ノイシュバンシュタイン城



BMW博物館



シュトゥットガルト



マックス・プランク研究所



ザルツブルク

ドイツの文化・研究発表などの感想

- 意外と生活できたので、今後の就職活動で、海外出張が多い企業も視野に入れたいと思えた。
- 事前に準備した原稿に沿って話すことはできたが、インタラクティブな発表はまだ難しいと感じた。
- 英語能力については渡航前から不安だったが、町中や駅などでは英語を使って意思疎通をこなすことができ、その面では自信になった。
- たと言葉が完全に通じなくとも、コミュニケーションを取ろうとする姿勢があれば話は聞いてくれる。そういった面での能力も海外では大切だと思った。